和教時報

2022年９月15日（木）発行　第1989号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

労働条件は、労使が対等の立場で決定すべきもの

確定交渉2022

力を合わせて要求前進を勝ち取ろう！

和教組　書記長　川口　貴生

毎年、秋に確定交渉が行われます。労働条件は「労働者と使用者が、対等の立場において決定すべきもの」（労働基準法）であり、私たちにとってそのために行われるのが確定交渉です。給料や休暇などの制度、職場の多忙改善など、要求を訴えて実現させましょう！

私たちの任命権者は県教育委員会なので、私たちは高校の組合や教育庁の組合とともに県教委を相手に交渉します。第一回交渉で要求書を提出し、第二回は課長が、第三回は局長が、第四回は教育長が出席し、交渉を積み上げていきます。今年は知事選挙があるため日程が流動的ですが、基本的な交渉方法は同じです。

この二年間はコロナのため参加人数を絞りましたが、それまでは最終交渉では二〇〇人以上が会場を埋め、夜八時すぎまで交渉しました。人数で圧力をかけることは有利に進める上で重要であり、今年は一三〇人ぐらいの参加で盛り上げたいと考えています。

要求書はホームページからも確認できるようにします。今年の重点課題は、まず給料アップです。人勧で改善が示されているので期待大ですが、物価高に見合うほどではなく、さらに積み上げるよう要求することが重要です。会計年度任用職員には「勤勉手当」がないため、ボーナスアップも大きな課題です。

県独自の三五人学級の実施や教職員増員、超勤縮減のための業務削減、ハラスメント対策なども重要です。安心して妊娠・出産・子育てができる職場環境を求めてご協力をお願いしている署名は、確定交渉で提出します。臨時的任用職員や会計年度任用職員の年休の繰越しや病休の改善なども前進させたい課題です。

交渉に参加できない方は、職場に「職場の声」という用紙をお届けしますので、思いを書き込んでください。交渉会場に掲示して、これも県教委に対して「たくさんの職場が注目しているぞ」というアピールになりますのでご協力をお願いします。

確定交渉、力を合わせて要求前進を勝ち取りましょう！

輝いてワンショット

落ちる～～～！

（有田支部　青年部ツアーより）

ピンのスポット 404

最近私は、夜あまり眠れない。子どもと一緒に二一時に寝たとして二時か三時に目が覚め、そのあと眠れない。一人で眠る時も二三時ぐらいにベッドに入って、四時ぐらいに目が覚める。休みの日に八時ぐらいまで寝たいと思っていても、五時ぐらいに目が覚める。よって私の平均睡眠時間は四～五時間ぐらいだ。

当然ながら夜眠れていないので昼間に急激な睡魔に襲われる。一番困るのは運転中に睡魔に襲われる時だ。耳鼻科に相談し、睡眠時無呼吸症候群の検査もやったが異常はなかった。

市販の睡眠が改善するというものも試してみたが、効果があるように感じない。

若い頃は七～八時間寝ていたし、どちらかというと夜中遅くまで起きていることができない方だったのに。きちんと八時間ぐらいぐっすり眠りたいけど、どうすればよいだろう？（N）

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」2022in高知

アツさ全開！つむぎ・つながる全国教研

「教育のつどい2022」が３年振りに対面実施を復活し、高知市で開催されました。コロナ前より参加者は少なかったとはいえ、総レポート数は約280本でした。

和教組からは昨年度の県教研から推薦された４人の方がレポートを報告しました。どのレポートも、子どもたちの姿が目に浮かぶ様な実践ばかりで、全国と仲間とつながり、大切な時間を共有しました。初めて全体会を視聴した30代の方は、「最初から雰囲気に引き込まれた」。20代のレポーターは分科会の後「みんなから意見をもらって、（県教研後に加筆してなかったことを反省し）レポートを完成させることが終わりでなはかった」との感想が寄せられました。以下は４日間参加されたレポーターの感想です。

田中優子さん（全体会講師）

全体会の呼びかけ

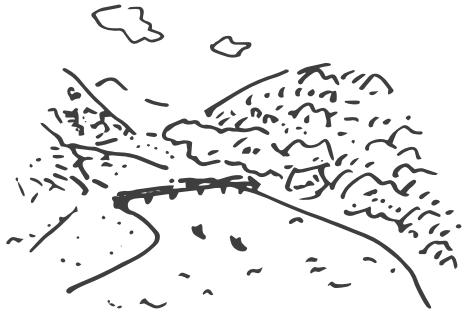
感想

和歌山市支部　有功東小分会　白石　昂

ゆっくり進む醍醐味。カブで高知へ!!

今回の教育のつどい二〇二二in高知は、私にとって、大切なことを再確認できた機会となりました。

長期休暇になると、いつも「旅に出たい！」という思いに駆られます。コロナ禍になり、電車や飛行機での旅行がはばかられる中、スーパーカブでの、中速長距離移動に活路を見出した私は、紀南をぐるっと回って三重に行ったり、滋賀に行ったりと休暇を楽しんでいました。そんな中やってきた高知での「教育のつどい」開催のお知らせ。これはカブで行くしかない、と思いフェリーにカブを載せて徳島へ。そこから高知まで二〇〇㎞ちょい。徳島は山と川と海と稲田の波状攻撃。高知に入ると、ひたすら海沿いを走ります。



そうして、スーパーカブのスピードで風を受けて走っていると、実感することがあります。夕暮れの鮮やかな雲の色、刈り入れを終えた稲田の香ばしい匂い、朝と昼で変わる海の表情、視界の端から端まで伸びる飛行機雲。それらを美しいと思う感性が自分にあること。目的地へとゆっくりと進む、その道中でしか得られないものがあるということ。

教育DXに流されず、子どもたちの速度で

そして、それは現地に到着し、フォーラム、分科会に参加して、更に強い実感となりました。フォーラムB「GIGAスクール構想・教育DXをジャックせよ！」では、大きな改革の激流の中で、「テクノロジー」ではなく「子ども」を中心にして進むために、多くの人が集まり議論を交わしていました。国語の分科会では、「文学を文学として読むこと」「子どもたちのありのままの表現の美しさ」というキーワードが胸に残りました。私自身、実学重視、結果重視の強い風の中で、抗おうと思いながらも気付けば少しずつそちらに流されていたのだと気付かされました。

今回の「教育のつどい（行き帰りも含め）」では、目的地自体ではなく、そこへ向かう道中に価値があるように、実学ではなく、子どもが「人」として学ぶその過程こそが尊いのだということを再確認することができました。これからも、時代の速度ではなく、子どもたちの速度で、ゆっくりと進んでいきたいと思っています。

全国教研和歌山交流会 in はりまや橋ホテル

青年部

直接会って心と心の交流を！

那賀支部　荒川中分会　清原　久尭

八月一一日（木）、田辺市にある大塔青少年旅行村へ青年部ＢＢＱに行ってきました。コロナ感染拡大防止の観点から、各支部から数名程度の人数に絞っての活動となりました。

ＢＢＱ場には渓流があり、夏の暑さも少し忘れることができました。ＢＢＱをしながら、各分会の活動の様子や各学校での悩み、今までの教員生活についてなど、たくさんおしゃべりしました。終わりに近づくにつれ、プライベートの話も増えていきました。

現在は、コロナウィルスの影響で、オンライン会議が主流となりつつあります。「オンラインでもつながることができる」というのは確かにそうだと思います。しかし、直接会って一緒に活動をすることで、会話が弾み、笑顔がはじけ、本当の意味での心と心の交流ができると実感できました。コロナウィルスと上手に付き合いながら、このような活動が増えれば良いなと思いました。

有田支部

青年部ツアーでリフレッシュ！

有田支部　吉備中分会　古久保　勝政

八月七日（日）、有田支部青年部ツアーで北山村でのラフティング＆キャニオニングツアーに行ってきました。このツアーは有田支部青年部の恒例行事となり、有田支部の名前でツアーを予約すると料金を安くしてくれるほどのお付き合いになっています。

ラフティングに一〇名、キャニオニングに二名が参加しました。コロナ禍でしたが、天気も良く屋外でのアドベンチャーだったので、一二名の参加者は本当に楽しい一日を過ごすことができました。

私が参加したラフティングでは、波しぶきの中みんなで協力し合ってパドルを漕ぐのが楽しかったし、高い岩からの飛び込みも本当に気持ちよかったです。来年は、違うスリルが味わいたくてキャニオニングに挑戦したいと思いました。

東牟婁支部

夏の交流ツアー　北山川筏下り

東牟婁支部　宇久井中分会　矢野　耕平

ここ二年余、コロナ禍で集まれない日々が続きましたが、久しぶりに開催した青年部行事、「筏下り体験」には、小学生から大人までの計一五名が参加しました。乗船時間およそ一時間。ゆるやかな流れの場所では大自然に囲まれながら船員さんからの筏下りの歴史についてのお話を聞き、急流の場所では全員が立って、急流下りを大いに楽しみました。参加者からは、「初めての筏下り、とっても楽しく、良い体験ができた」「また来年も開催されたら行きたい」「あらためて和歌山の自然の豊かさを感じた」などの感想が多数ありました。自然を満喫した参加者は、みんな笑顔で北山をあとにしました。次回以降もより多くの人に、青年部行事に参加して頂けることに期待したいです。

体験行程表

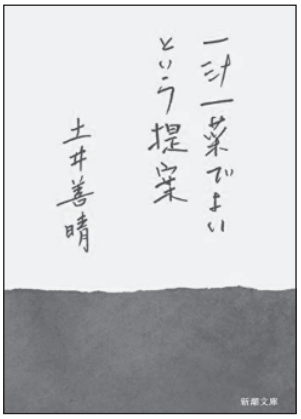
12時20分	集合（観光案内所前にて点呼、集金、挨拶、諸注意を行いました）
12時55分	観光センター出発（バス）
13時15分	乗船所到着
13時25分	筏下り開始
14時30分	筏下り終了
14時45分	観光センター到着（バス）（終わりの挨拶を行い、解散しました）
14時50分	解散

ぜひ あなたにも 読んでいただきたい この一冊

4 「一汁一菜でよいという提案」

（土井善晴　著）

和歌山市支部　西脇中分会　**平田　秀一**



タイトルを見た時、なんか常識に対して挑戦しているように感じ、読むことにしました。一汁一菜では栄養が足らんのじゃないかと思っていたし、なんかパッとしない食事と思っていたからです。

「この本は、お料理を作るのがたいへんと感じる人に読んでほしいのです」という書き出しから始まります。確かに毎日忙しくて、だんだん料理をつくったり、食事にかける時間が少なくなっている気がしていました。味わうこともせずに、ただ食べているだけになっているように感じ反省するときもありました。

一汁一菜は日本人が長年にわたって作り上げた食文化であり、豊かな生き方がつまっていると言います。ご飯とみそ汁がおいしいと感じるのは、身体が喜んでいると表現し、マグロの脂に反応するおいしさとはちがうと言います。よくわかる話だと思います。ごちそうと普段はちがうということです。また、ご飯とみそ汁がいかにすごいものであるかを知ることができ、料理の品数をそろえることがいいことだという考えに縛られていたことに気づきました。

これを読んで心が軽くなりました。バランスのよい食事とは何なのか考え直すことができてよかったです。効率を求められる中で、豊かさを失っているのではないかと日々考えています。我が家では一汁一菜を基本にするようになりました。大豆を栽培して、自家製みそも作っています。

あとがき

コロナ第七派が徐々に落ち着きをみせています。今月号では、夏休み中の取り組みとして、青年部を中心とした、いくつかの支部でのレクの記事を掲載しました。その中で、「やっぱり集まることの大切さ、意義について、あらためて考えさせられた」という声がありました。オンライン技術が進み、簡単に画面の向こうの人と会話できるようになりました。しかし、今、同じ空間や空気を共有し、言葉のキャッチボールをすることの意味を考えてみる機会にしてみませんか？

★秋の加入キャンペーンスタート★
医療共済　全教共済
新型コロナウイルス感染症
ホテル・自宅療養で給付します※
※陽性であること、保健所（医師）の指示があることが要件です。
募集期間　11月30日まで!!
医療共済に新規ご加入で
ハーゲンダッツギフト券プレゼント!
和教共済　TEL:073-436-7860

おすすめ!
和教共済
073-436-7860
全教 自動車保険
12月末まで
プレゼント
キャンペーン実施中
ハンドクリーム
& Shupatto